

被災者・地域への配慮と安全なボランティア活動のために

● 災害ボランティアとは

- ・ ボランティアは他人に強制されて行動するのではなく、自らの自由意志で自立的にかつ、徹底した自己責任で活動します。とくに緊急時、災害時のボランティアは日常での市民活動や福祉ボランティアの常識や行動規準とは大きく異なり、悲惨な現実に対して効果的な行動をとるために強いチームワークをもって行動することが求められます。
- ・ ボランティア個々人が『私はこうしたい』という気持ちを強く出すことは、ときに迷惑にしかありません。現場では被災者の願いや思い、チーム全体の流れに沿った活動をチームプレイで行うことで個人では為し得ない高い効果を得られます。
- ・ 現在 RQ では災害ボランティアに活動する場と簡単な食事の提供を行っています。ただしこれは基本的に衣食住を保障するものではありません。災害ボランティアは基本的に衣食住と自分の安全を自ら確保することが活動の前提です。

● 被災者と被災地域への配慮

- ・ 災害発生前までは普通の暮らしやいとなみがあった地域です。けっしてゴミ、瓦礫の町ではありません。ゴミ、瓦礫であっても、すべてに持ち主がおり、大事な思い出のある家跡であり、品々です。丁寧に扱ってください。
- ・ 明るい笑顔の被災者もいれば怒りをあらわにした方もいます。でもすべては大震災と津波に起因して多くを失った方々です。日々、大きな絶望と小さな希望とに揺れ動く心の葛藤を子どもたちさえ持っています。そのときの表情、態度ですべてを押し量らずに柔らかに受け止めましょう。
- ・ ボランティアが出来ることはささやかです。災害の主役と勘違いして何でも出来るかのような尊大な態度言動は深く慎んでください。
- ・ RQに限らず、地区外から来るすべてのボランティアは「よそもの」です。突然現れたボランティアたちを被災地の皆さんはじっと見えています。一人の不用意な言動が被災者とボランティアを切り離してしまうかもしれません。被災地と被災者のみなさんの信頼無くして効果的なボランティア活動は成り立ちません。誠実に明るく活動してください。
- ・ ボランティアは悲惨な状況を前に表情も曇りがちですが、ボランティアの元気と笑顔が被災者の皆さんにとっても喜ばれてきました。今から活動する人も元気な笑顔を忘れずに。

● 安全なボランティア活動のために

- ・ 災害ボランティアは特定の組織の構成員ではなく、自由意志で参加した市民です。自分が危険だと思ったら不適切だと思う活動は断る自由があり、誰も強制できません。
- ・ 自らの安全は自ら守る＝セルフエイドの思想が災害ボランティアの原則です。他人が自分の安全を守ってくれるわけではありません。
- ・ RQ では倒壊家屋の片付けや危険地域の活動は原則として行いません。個人では行動せず、かならず2人以上で行動し、危険区域などへは立ち入らないようにしてください。

活動は2人以上のチームで行う 個人行動や一人では行動しないでください。

RQ ボランティアの所属を明らかにする 腕章・IDカードはかならず着用してください。

倒壊家屋内部や水辺の片付けはしない 危険な作業は頼まれてもお断りしてください。

しっかりした準備で作業する 活動内容にふさわしい準備と服装をしてください。

安全運転・法令遵守 被災地では普段より慎重に交通ルールに沿って安全運転遵守です。

元気よく声をかける 活動場所では明朗な声と態度で被災者の方に接してください。

事前打合せと報告の徹底 活動に際しては事前と事後の打合せ、報告を徹底します。

● 災害ボランティア活動の実際

避難所で

- ・ 体育館などの大規模避難所以外の民家での避難所も無数にあり、すべてが RQ の活動対象です。
- ・ 避難所では住民リーダー（施設管理者）の指示に従って行動します。
- ・ 避難所内部はプライバシーに気遣い、原則、活動場所は避難所の外のエリアとします。
- ・ 住民の水汲み、トイレ掃除、炊き出しなどの作業の他、マッサージ、散髪などの技能活動、子どもの遊び活動や絵本の読み聞かせ、カフェの運営やお年寄りへの「なにか困っていませんか？」などの声掛けに始まる話し相手（傾聴）など、その避難所に合わせた活動を作っていきます。
- ・ とくに「傾聴」活動は被災体験を他人に話すことでこころのつかえを取り除く効果がある反面、興味本位に聞きだしたり、ボランティア自身が話しをリードしてしまうことで逆に被災者の心を傷つける恐れもあります。また、被災体験を聞く備えが無いボランティアの場合には自分自身が耐え難い思いを抱くこともあり、慎重に穏やかに話しを静かに聞く備えを持ってください

物資配布

- ・ 被災地ではとくに慎重な運転が必要です。けっして無理せず疲れたら休んでください。
- ・ 物資の要望はすべて応じることができるわけではありません。また、地域経済への配慮や妥当性の見られない要望には丁重にお断りすることも大事です。
- ・ 物資は緊急支援期のほか、仮設入居時や引越し時期などニーズが再度高まるときがあり、それに沿った物資管理が必要となります。

瓦礫・漂流ゴミ

- ・ 行政が行う以外の人力でしか出来ない片付け、漂流ゴミ集めは、安全な箇所でのみ行います。
- ・ 片付け作業の対象地は地権者、地区長などの承認のもとで実施し、無断では行いません。
- ・ 片付け作業には集めたゴミの処理や作業方法などを十分打合せの上で実施します。
- ・ 丈夫な軍手、作業靴、ヘルメットないし、帽子着用、マスク、作業着など着用します。

ボランティアのためのボランティア

- ・ 災害ボランティアが活動するために現場では、『食事を作る人』、『連絡調整をする人』、『活動準備を担当する人』など、多くの「ボランティアのためのボランティア」が必要です。
- ・ すべてのボランティアが現場に出て、被災地や被災者に直接サービスしたいと思えば、ボランティア本部もボラセンも成り立ちません。ぜひ、大事でかつ、多様な活動を受け入れてください。

活動時間

- ・ 原則的に7時までに朝食を済ませ、8時には活動に出られるようにします。昼食をまたぐ場合には弁当を各自、持って出るようにしてください。16時までに作業と片付けを終えてください。
- ・ 遅くとも18時半までにボラセン、本部に戻ってください。

怪我をしたら

- ・ ただちに応急措置を行い、本部に連絡をして指示を受けてください。
- ・ 自力で帰れない場合にはレスキューチームを派遣します。
- ・ 軽度の怪我でもかならず患部を洗うか清拭し、その後消毒して、けっして怪我を放置しないようにしてください。
- ・ 怪我によってボランティア活動を継続できない場合には、出来るだけ速やかにボランティア活動から離れ、帰宅してください。
- ・ 怪我にはボランティア保険が適用できますので、RQ 東京本部に問い合わせてください。